

(要約版)

日本のたばこ信仰

— たばこ神社を中心に—

助成研究者 加原奈穂子 ((東京芸術大学) 文化人類学・社会学)

本研究の目的と研究方法

本研究は、日本における葉たばこ栽培をめぐる信仰について、「たばこ神社」を中心として、その歴史と現状を現地調査に基づいて明らかにすることを目的とする。

「たばこ神社」とは、主としてたばこの耕作について豊作の祈願と感謝の儀式を執り行う場として祀られた神社を言う。全国的にたばこ栽培が行われていた時代、名高い銘葉を持つ、葉たばこの主要産地において、各地区のたばこ耕作組合が主体となって創建された例が多い。たばこ神社では、各地区のたばこ耕作組合や日本専売公社などが中心となり、豊作の祈願や感謝のために、年中行事的な儀式が行われてきた。

たばこ神社に関する先行研究としては上田利男『たばこの民俗』(1977)があるが、その中で報告されている例は表1に挙げた28例である。

表1 『たばこの民俗』に見る「たばこ神社」

県(神社数)	たばこ神社の名称
岩手(3)	○千厩 ^{せんまや} たばこ神社、一関 ^{いっせき} たばこ神社、○大迫 ^{おおはさま} 南部たばこ神社
福島(8)	○塙 ^{はなわ} たばこ神社、○船引 ^{ふねひき} たばこ神社、川俣 ^{かわまた} たばこ神社、○小野 ^{おの} 新町 ^{にいまち} たばこ神社、月館 ^{つきくま} たばこ神社、○石川 ^{いしかわ} たばこ神社、鮫川 ^{さまがわ} たばこ神社、小平 ^{ひら} たばこ神社
宮城(1)	若草 ^{わかしら} 神社
栃木(2)	○馬頭 ^{うまがしら} たばこ神社、○茂木 ^{もてぎ} たばこ神社
茨城(1)	○加波山 ^{かばさん} たばこ神社
長野(1)	板垣 ^{いたがき} たばこ神社
岡山(3)	○穴門山 ^{あなとやま} 神社、岡山 ^{おかやま} 地方局 ^{ちほうきよ} たばこ神社、○岡山 ^{おかやま} たばこ試験場 ^{しけんじやう} たばこ神社
徳島(1)	○貞光 ^{さだみつ} たばこ神社
香川(1)	○豊葉 ^{とよは} 神社
福岡(1)	志波 ^{しわ} 宝満 ^{ほうまん} 宮 ^{みや}
鹿児島(6)	○冠岳 ^{かんむりだけ} 大岩戸 ^{おおいわ} 煙草 ^{えんそう} 神社、○開聞 ^{かいもん} 町 ^{まち} たばこ神社、○高山 ^{たかやま} 町 ^{まち} たばこ神社、谷山 ^{やま} 町 ^{まち} たばこ神社、○隼人 ^{すんにん} 町 ^{まち} 日秀 ^{にっしゅう} 神社、○顛娃 ^{えいちょう} 町 ^{まち} たばこ神社

現在、全国のたばこ神社の多くは、たばこ耕作者の急激な減少に伴って、衰退の途を歩んでいる。たばこ神社は、たばこで栄えた地域にとっては、地域の記憶を刻む文化遺産でもあるが、現地のたばこ耕作組合の統廃合や事務所の移転なども重なって、十分な記録や資料が残されている例さえほとんどない。本研究では、文献調査に加えて、現地調査（関係者への聞き取り調査、祭礼への参与観察、資料収集、写真・動画記録の作成など）を行うことで、①上田（1977）の報告にあるたばこ神社の歴史と現状を、現地のたばこ栽培やたばこ耕作組合との関係を踏まえたうえで明らかにすること、②上田の調査から抜け落ちていたたばこ神社や、それ以降に新しく創建された例についても調査を進めること、③たばこ神社を地域活性化の資源とする試みなどが見られれば、それについても把握することで、現代の地域社会におけるたばこ神社の意義と活用を考察することを試みた。

研究の成果

上田の報告にあるたばこ神社のうち、現地調査を実施できたのは、表 1 の神社名の前に○を付したものである。一関たばこ神社、岡山地方局たばこ神社、岡山たばこ試験場たばこ神社、貞光たばこ神社、谷山町たばこ神社、颯娃町たばこ神社については、すでに現存しないことが確認できた。また、今回の調査で、上田（1977）に報告されていない、^{ひかわ}斐川たばこ結神社（島根県出雲市）、高岡・^{むかさ}穆佐たばこ神社（宮崎県宮崎市）、^{くま}球磨・人吉たばこ神社（熊本県球磨郡）、^{あいら}吾平たばこ神社（鹿児島県^{かのや}鹿屋市）、^{いずみ}出水たばこ神社（鹿児島県出水市）、および、鹿児島県^{いぶすき}指宿市のたばこ神社（八幡神社、^{いまたけ}今嶽神社、^{じょうろく}丈六たばこ神社、小田たばこ神社、玉利たばこ神社、堀切園たばこ神社、岩本たばこ神社ほか）を確認することができた。なお、斐川たばこ結神社と高岡・穆佐たばこ神社については、すでに社は取り壊され、御神体のみが祀られている。本研究では、現地調査を実施できた約 30 のたばこ神社について、創建の経緯やその後の歴史、現状等を記述すると共に、写真と動画でも記録を作成した。特に、岩手県の大迫・南部たばこ神社、福島県の小野新町たばこ神社、常葉・船引たばこ神社、石川・専売局たばこ神社、岡山県の穴門山神社、鹿児島県の冠岳・鎮國寺頂峯院では、祭礼の動画記録も作成させていただくことができた。

考察と今後の課題

- ①たばこ神社創建の時期と主体：たばこ神社の大半は、現地のたばこ耕作組合が主体となって、戦前に創建されたものである。今回、すでに大正期に、鹿児島県指宿市において、大岩戸神社の分霊を祀る活動が広く見られたことが明らかになった。確認できた限り、1922 年（大正 11）建立の^{じょうろく}丈六たばこ神社が最も古い例である。
- ②たばこ神社創建の目的と背景：たばこ神社創建の目的として、天候不順や冷害などによる不作の救済や耕作者の団結強化がある。専売制の下で、たばこ耕作組合が組織化されており、不況の時代でも比較的安定した収入を得られたことが重要な下地となった。また、何らかの記念事業として企画された例が多い。特に集中している

のは、1928年（昭和3）と1941年（昭和16）であるが、前者は昭和の御大典、後者は皇紀2600年の記念事業である。戦時色が強まる中で、国家財源におけるたばこの重要性と報国の精神を強調する例も見られる。たばこ耕作組合は、特に戦前は、地縁によって結びついた団体であると同時に、国策としてのたばこ事業の運営を周知徹底させるために全国的に制度化された組織でもあった。こうした組合の性格を反映して、たばこ神社は素朴な民間信仰に支えられた氏神としての性格と、国家主義との結びつきをも併せ持っていたと言える。

- ③今後の課題：近年、たばこ耕作者の著しい減少により、たばこ神社の多くが困難な状況に直面している。今後は、今回は現地調査を実施できなかった事例に関する現地調査を行うと共に、地域を限定したうえで、たばこ神社創建の背景に関してより詳細な考察を加えていく必要がある。また、伝統的な神事にたばこを用いる神社の事例に関しても考察を進めていきたい。福島県の小野新町、常葉・船引、石川・専売局たばこ神社については、本研究での撮影が、戦前から続いた祭礼の最後の動画記録となった。今回の動画は、必要な映像や説明を加えて、たばこ耕作の歴史を語る素材として、地域で役立てていただけるような作品にまとめたいと考えている。